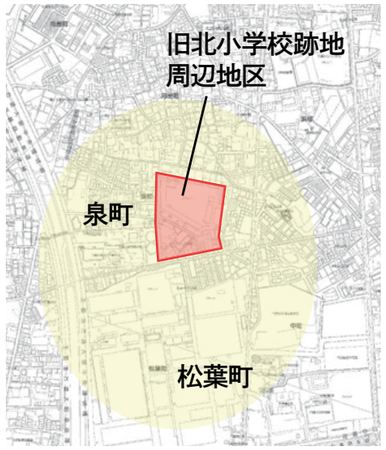
旧門真市立北小学校跡地
活用プレビジョン

1 背景と目的



- 旧北小学校跡地周辺は**木造住宅等が密集した地域でありかつ狭小道路が多いことから**、防災上の課題を多く抱えています。
- 課題解決のためには、道路整備等による延焼遮断帯を確保することなどによる、**まちの防災性向上の取り組み**が求められています。
- 旧北小学校は**学校統合により閉校**、その後、市民利用されていた体育館は老朽化により閉館、運動場は現在まで地域の皆さんの活動の場となっています。
- 本地域は高齢化の進展が市内でも顕著であり、持続可能なまちの発展を考えるうえで、**人口構成のバランスを整える**ことが求められています。
- 本地域は、**コミュニティ機能の核となり、かつ生活の利便性を向上させる施設**がない課題をもっています。
- 地域の資産価値を向上させるための取り組みが求められています。
- 旧北小学校跡地活用においては、**京阪電鉄の各駅周辺や庁舎エリアと連動**したまちづくりを実施する必要があります。
- 旧北小学校跡地の活用を含めた地域の将来像（プレビジョン）の作成が求められています。

2 「プレビジョン」の策定経緯

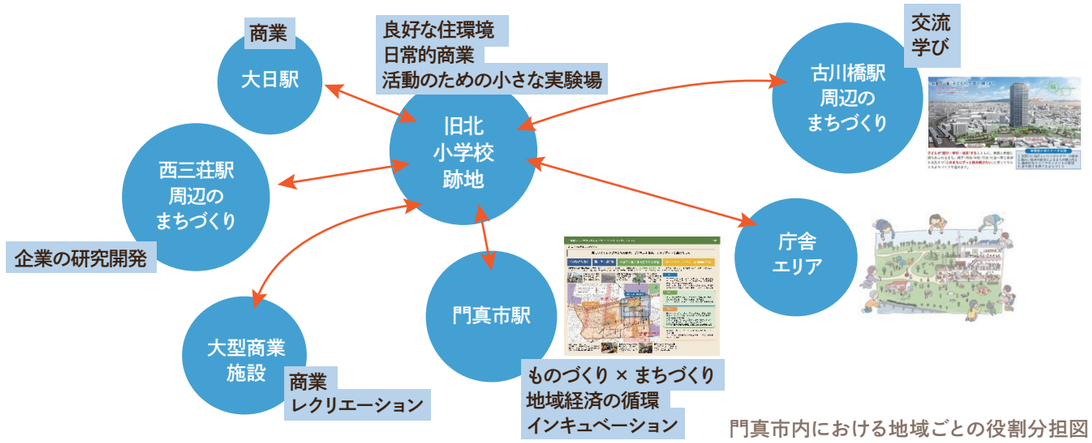
- 学校統合により廃校となった旧北小学校跡地の活用を参加者みんなで考える、**「旧門真市立北小学校跡地 未来づくりワークショップ」**を開催しました。
- 令和 4(2022) 年度は、プレビジョンづくりと活動づくりの2つをテーマに、1 年間を通して 4 回のワークショップを実施し、旧北小学校跡地がどんな場所になってほしいか、どんな機能が必要か等意見交換を行い、旧北小学校跡地の未来の姿について検討を進めてきました。
- また、11 月にはワークショップで出たアイデアを踏まえて、実際に旧北小学校跡地で様々な「やってみたい」活動を行ってみる**活用実験「キタショウカーニバル」**も実施しました。多くの皆さんにご来場いただき、賑わいのある旧北小学校跡地の姿をイメージすることができました。
- 令和 5(2023) 年度は、さらなる**活用実験「キタショウフェスティバル」**を5月に実施し、旧北小学校跡地の未来の姿「プレビジョン」の策定に向け、3回のワークショップを行いました。
- このプレビジョンはこれまでの取り組みの中で出された市民の意見等を踏まえ、周辺のまちづくりとの連携を含めた旧北小学校跡地周辺地区の大きな活用方針を示すため策定するものです。

第 1 回活用実験「キタショウカーニバル」
令和 4 年 11 月 19 日 (土) 実施　来場者数約 600 名

第 2 回活用実験「キタショウフェスティバル」
令和 5 年 5 月 28 日 (日) 実施　来場者数約 2,700 名

3 本地域の門真市内での位置付け

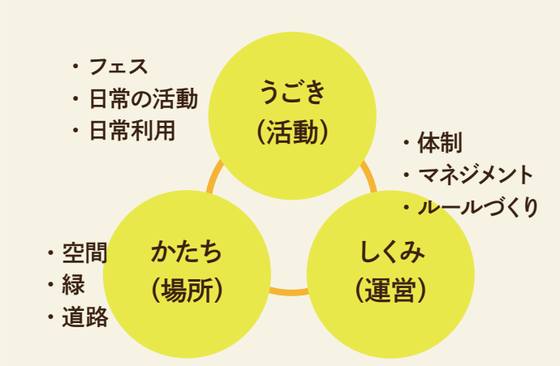
- 門真市内各地でまちづくりが行われ、それぞれに**特徴をもったエリア**が形成されています。
- 門真市駅周辺エリアは「働く」と「暮らす」を再びつなげる結節点とし、人や事業がどんどん「育つ」エリアを目指しています。地域資源（ものづくり・飲食など）を活かし、発見・創造・発信を繰り返しながら、エリアをより個性的・魅力的にブラッシュアップされていくまちづくりに取り組みます。
- 庁舎エリアは市庁舎の建替え、広場の整備を行い、庁舎機能、公園・広場機能及び防災機能が連携し一体的に機能を発揮できる拠点、周辺エリアと連携した新たなまちづくりを創造し、情報を発信・動きを波及させる拠点、情報を集約するとともに、内外に発信する門真の魅力エントランス拠点を目指します。
- 西三荘駅周辺は、大手電機メーカーの研究開発等の拠点となっています。
- 古川橋駅周辺は交流広場を核として生涯学習複合施設やタワーマンション等の建設が予定されており、多様な学びを通じた人と人との出会いや新たな賑わいが生まれる場となります。
- これらの中で、本地域については、周辺エリアとのつながりも考慮しながら地域の特性を議論していく必要があります。



門真市内における地域ごとの役割分担図

4 プレビジョン推進のために

- プレビジョン推進のためには、**「うごき（活動）」「しくみ（運営）」「かたち（場所）」**の 3 点から取り組みを進めることが必要です。
- 旧北小学校跡地では、これまで「うごき」としてフェスを行ってきました。
- これからは、「かたち」として空間づくり、「しくみ」として体制づくりとマネジメントが必要になってきます。
- これらの「うごき」「かたち」「しくみ」が**相まっていく**ことが大切です。



かたち・うごき・しくみの相関図

5 将来イメージとコンセプト

■ 未来づくりワークショップの中で対象エリアをどんなまちにしたいかアイデアをいただいた結果、**「広場（イベント・スポーツ）」「まちづくり・暮らし（住まい・歴史文化・緑）」「防災・安全」「教育・子育て」「サービス・商業」**のキーワードが出てきました。

■ これらをもとに６つのコンセプトを作成しました。**「歩きたくなるまち」「産官学民様々な主体がチャレンジできるまち」「人とつながるまち」「文化をひきつぐまち」「子育てしやすく住みたくなるまち」「安心に暮らせるまち」**

暮らしがつながるまちづくり

職・住のバランスがよく安全安心にリニューアルを遂げ次世代へ

目標像

日常アクション

歩きたくなるまち

必要な道路整備を実施しながらも、従来のまちなみと融合させることでヒューマンスケールの景観変化を楽しめる、緑あふれるまち

●まちなかに緑が溢れる、歩きたくなるまちづくり

●ローカルな雰囲気を持つ、空き家をリノベーションしたカフェなど行ってみたくなる場所がある

●フェスの内容が日常的に実施されている

産官学民様々な主体がチャレンジできるまち

企業、学生、市民などの立場に関わらず、チャレンジしてみたいことがある人が気軽にチャレンジできるまち

●仲間づくりができ、仲間と活動できる

●自分の活動や趣味を応援してくれる仲間と出会うことができる

●小学校校舎を活用した事業展開がされている

人とつながるまち

人との直接の交流だけでなく、お互いがゆるやかにつながり、このまちが自分の居場所だと感じられるまち

●様々な人が思い思いに過ごせる

●学びの場所になっている（大学の活動拠点、地域の人からの学び）

●日常的な買い物や日常に必要な活動ができる

文化をひきつぐまち

まちづくりによって地域の風景が失われることなく、地域のこれまでの歴史や良さが残された、地域の歴史が積み重ねられていくまち

●属性に関わらず多様な人と交流することができる、また特定のコミュニティで集まることができる

●ローカル性や北小学校らしさが残っている

●日常的に小規模な販売、展示が行える

子育てしやすく住みたくなるまち

子どもがのびのびと暮らせる、子どもも子育てをする親も暮らしやすく住みたくなるまち

●子どもが農業体験できる

●子どもが自由に遊べる空間がある

●子どもが自主的に学べる

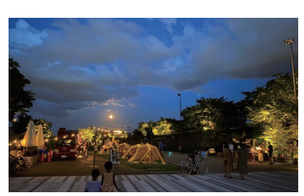
安心に暮らせるまち

防災性能が確保されており、災害時は逃げ込める場所がある、安心して暮らせるまち

●災害などの緊急時は広場等に逃げ込める

●住みながら働く

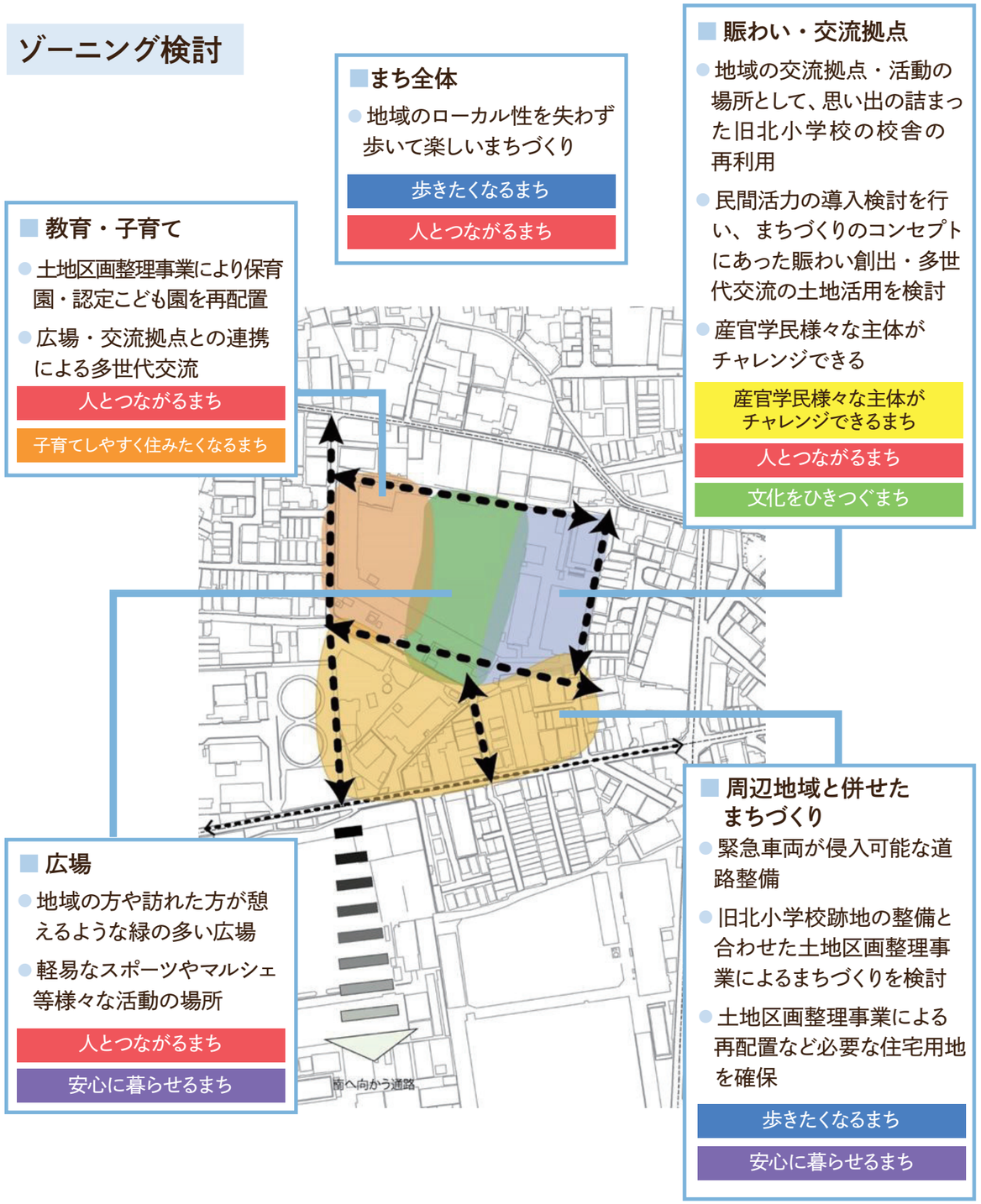
●夜間でも、安心して活用できる場所



キーワードと６つのコンセプト

6 まちづくり手法の整理

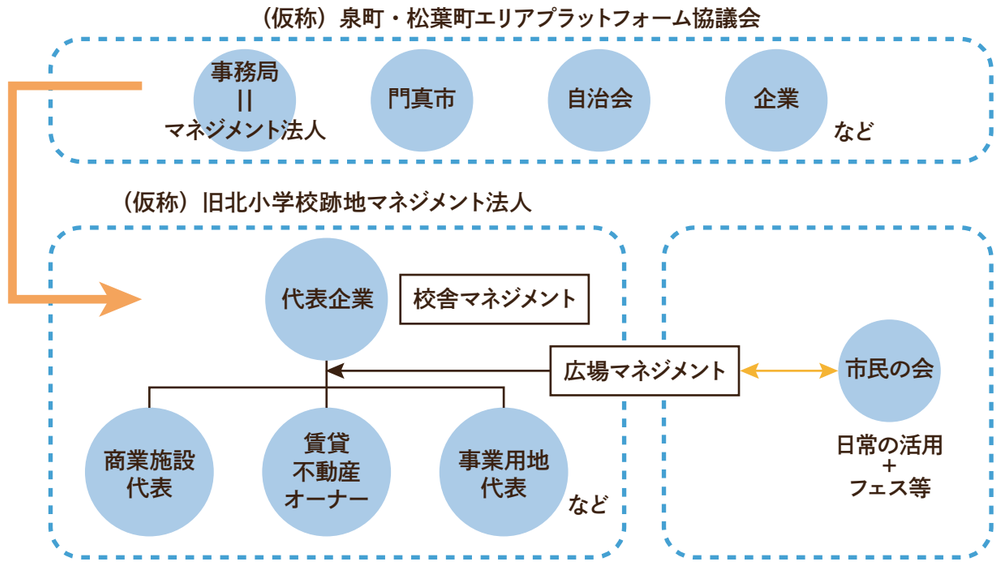
ゾーニング検討



ゾーニング検討図

エリアプラットフォーム

- 市民が関わるエリアマネジメント体制の一例として、以下が考えられます。
- 旧北小学校跡地に関わるステークホルダーが参画する（仮称）旧北小学校跡地マネジメント法人が、旧北小学校跡地全体（校舎マネジメント・広場マネジメント）の運営を検討します。
- とりわけ、旧北小学校跡地における広場マネジメントは、市民の会が積極的に関われるよう、日常の活用とともにフェスの開催等を行うなど、市民の主体性を発揮できるしくみを検討します。
- （仮称）泉町・松葉町エリアプラットフォーム協議会は、（仮称）旧北小学校跡地マネジメント法人が事務局となり、地域のステークホルダーが集まる組織として設立の検討を進めます。



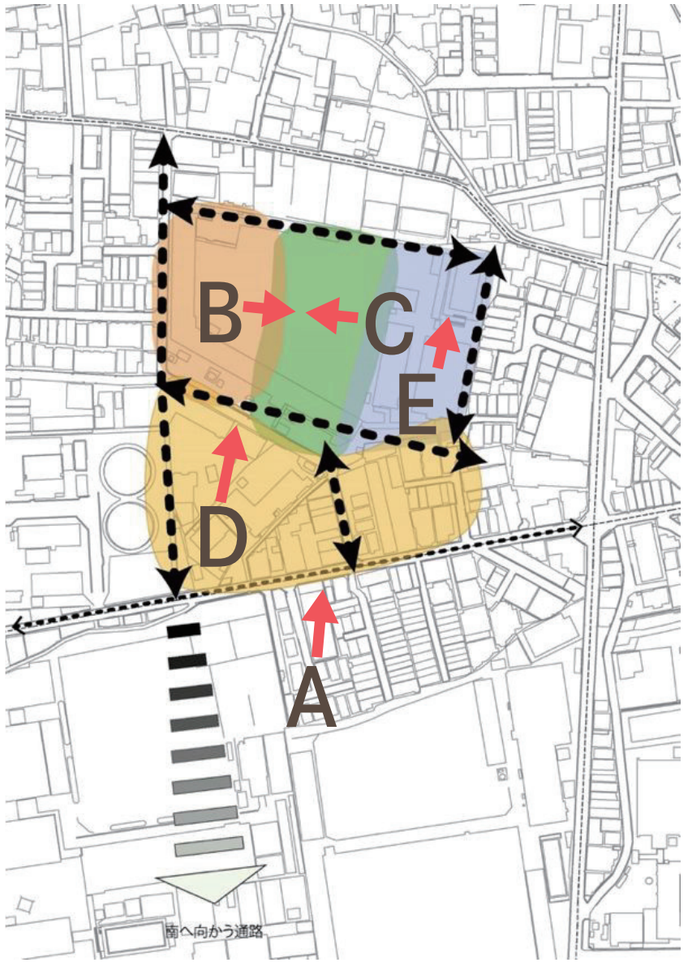
市民が関わるエリアマネジメント体制の一例

スケジュール（案）

		R4年度	R5年度	R6年度以降				
うごき	◇フェス ◇日常的な活用 ・暫定利用 ・完成後日常利用	キタショウカーニバル	キタショウフェスティバル	暫定利用			供用開始	日常利用
しくみ	◇ワークショップ ◇エリアプラットフォーム準備会 ◇本会	WS	プレビジョン策定	準備				本会
かたち	◇耐震診断 ◇解体工事（校舎の一部） ◇道路・公園工事		実施	実施	実施			

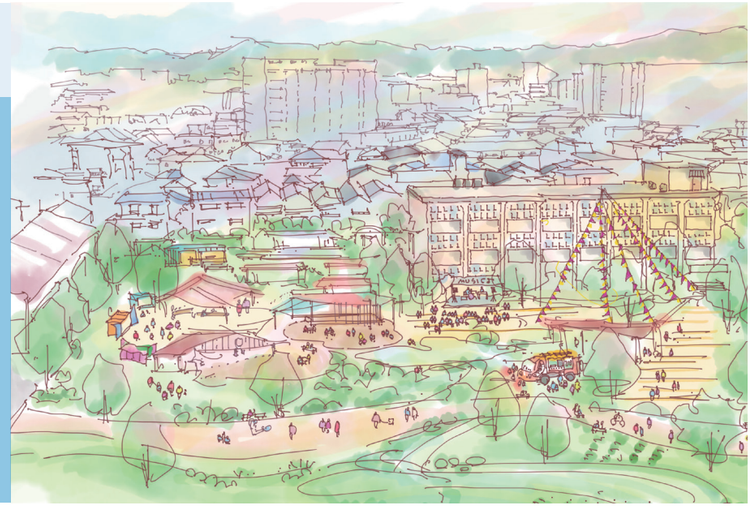
7 イメージパース

これまでいただいたご意見をもとに、それぞれのゾーンにおける風景をパースで表現しました。



A 俯瞰パーススケッチ（南側上空より）

B 広場の風景（旧校舎側）



C 西側公園のイメージ

D 低層住宅・コモンスペース

E 旧校舎東側広場空間の様子